

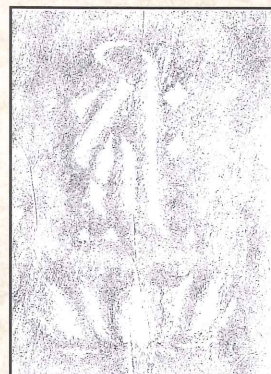
詳説「酒の井の碑」



高：94cm 幅：70cm 厚：12cm
石材：雲母片岩（筑波石）

種字部 拓本

「酒の井の碑」は、鎌倉時代から室町時代にかけてつくられた下総型板碑と呼ばれる供養塔です。今でも碑面には、真ん中に蓮花の台座と阿弥陀如来を表わす種字（キリーク）が刻まれているのが確認できます。



キリーク

蓮台

酒々井の由来

酒の井

さけ

い



～ふるさと酒々井の歴史と伝説～



伝説 酒の井(復元)▶



伝承 酒の井から



「酒の井」伝説

今は昔、この地に孝行息子が住んでいた。家は貧しく父母は年老いていたが息子は良く両親に尽くしていた。その父親は酒好きであったので、息子は毎日働いて銭を稼いで父に酒を買って帰っていた。息子は酒を父親に飲ませ、父親の満足そうであつた。だが酒を飲むのが一番の楽しみだつた。だが酒を飲むのは苦勞なことだつた。

この地には古い井戸があつた。その日、息子は酒を買う銭がつかれず、このまま帰れば父親の楽しみを無くしてしまふ、こんな親不孝はない、どうしようかと思案しながら家路を歩いてた。そのとき、あの井戸から酒の香りが「ぷうん」としてきた。息子は不思議に思いながら井戸の水を汲んでなめてみると、それは上等な酒だつた。息子は喜び、急ぎ家に帰って父親に飲ませた。これより先、息子は無理に銭をつくらなくとも、井戸から酒を汲んで飲ませるようになったという。この話しが近隣に広まると「孝行息子の真心が天に通じたに違いない」ということになった。そしてこの井戸を「酒の井」と呼び、村も「酒々井」と呼ぶようになったという。

出典 印旛郡誌 大正二(一九一三)年

解説

「酒の井」伝説は「孝子酒泉(養老)」伝説と「地名由来」伝説、更に「伝承碑」伝説の三つからなる珍しい伝説です。

印旛沼に面する、この土地は古来より湧き水の井が多く、水量も豊富であつたことから「しゅすい(出水)」と呼ばれていました。文字には音(おん)と同じ「酒(しゅ)」をあて、吉祥富貴の意味を込めて酒の文字を重ねて「酒酒井(酒々井)」と書きました。

鎌倉時代のおわり、この地を訪れた僧侶から「孝子酒泉」の説話が流布されると、鎮守麻賀多神社の神酒を造っていた酒々井山田福院神宮寺の井戸が酒泉とされ、養老伝説と地名由来からなる「酒の井」伝説が成立しました。

さらに室町時代のはじめに、この寺に幾つかの板碑(板石塔婆)が有力者により造立されましたが、豊臣秀吉によりこの地の大名である千葉氏が滅ぶと有力者も絶え、板碑は忘れ去られました。江戸時代となり、寺は小さくなり井戸も埋まりましたが、傍らの板碑がいつしか伝説を記念する「酒の井の碑」であると語られるようになりました。

江戸末期の国学者が古い書物にある酒が涌くという「盃の井」の場所を探したとき、「酒の井」伝説の残る「酒の井の碑」を「盃の井」であるとして書物で紹介しました。

「酒の井」と「酒の井の碑」には長い歴史と成り立ちがあります。

なによりも豊かに清水が湧き出るふるさとの話と親を大切に作る孝行息子の話が人々の心に残り語り継がれてきたのです。

「酒の井」所在地 千葉県印旛郡酒々井町酒々井一三七

酒々井町教育委員会
酒の井の碑広場管理委員会